

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 第5回佐渡市デジタル化推進検討懇談会
開催日時	令和5年3月28日（火） 10:00～12:00
場所	佐渡市役所本庁 3階大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 座長あいさつ</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「佐渡市デジタル化構想（素案）」の策定について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 第3回懇談会の振り返り</li> <li>② 「佐渡市デジタル化構想（素案）」の内容について</li> </ol> </li> <li>2) その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 令和5年度の懇談会について</li> <li>② 令和5年度の主な事業について</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 CIOあいさつ</li> <li>5 閉会</li> </ol>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>«デジタル化推進検討懇談委員» (9名)  «市役所» (6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐渡市副市長 (CIO) 伊貝 秀一</li> <li>・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕</li> <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室長 椎 俊介</li> <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室デジタル推進係長 桃原 里沙</li> <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 長谷川 博也</li> <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室情報管理係長 海老名 秀樹</li> </ul>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1人

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
座長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 座長あいさつ</li> </ol> <p>本日は今年度最後の懇談会となる。</p> <p>この懇談会が始まった年度当初の頃、佐渡市にもデジタル政策を専門的に扱う部署が設置され、市民と意見交換をしながら「デジタル化構想」の策定を進めていくということでこの懇談会が発足した訳であるが、日本の中でもこうした仕組みが整っている地域とそうでない地域があると思う。佐渡市については、今後のDXへ向けて専門部署を設置して取り組んでいる訳であるが、この1年間で、国の動きとしても「地方創生≒DX」というような部分があるかと思う。</p> <p>今回、実際に皆さまと「デジタル化構想」について議論してきた訳であるが、来年度以降は実際にそれを動かしていくことになる。本日、皆さまと「デジタル化構想（素案）」を見ながら、次年度以降、佐渡市においてこういったものが単なるイメージで終わるの</p>

	<p>ではなく、具体的に進んでいくためにどのようなことが必要なのかということにも思いを馳せながらご意見いただけたらと思う。</p> <p>よろしく願います。</p>
椎室長 座長	<p>3 議事</p> <p>1) 「佐渡市デジタル化構想（素案）」の策定について</p> <p>① 第3回懇談会の振り返り （アジェンダP.4～9について説明）</p> <p>P.9の「データにもとづく政策で行政サービスの効率化」については「イケてる行政」という表現に集約されているが、この表現でよいのか。「イケてる行政」という一言で何を表現しようとしているのか。この一言で十分な表現ができているのか。今はイケてないということなのか。</p>
椎室長	<p>この点については、のアジェンダのP.28「基本目標5」において説明させていただいている。また、P.29の「デジタル技術を取り入れた佐渡市が目指す未来のありたい姿」においても「@いつでもどこでも行政手続」という形で説明させていただいている。</p>
座長	<p>先ほどの説明資料では読み込めない部分があると思うが、「デジタル化構想」の中で読み込めるように整理している。</p> <p>行政サービスをより便利に使えるようになるというアクセシビリティのみのお話なのか。窓口機能を便利にしていくということは、市役所内のデジタル人材の育成であったりリテラシーが向上されていくことであったり、そういう土台があってこそ成り立っていくと思うので、そういったニュアンスについても含まれていてもよいのではないかと。含まれているような箇所はあるか。</p>
椎室長	<p>例えば、防災・防犯に係る部分ではあるが、P.24の「基本目標1」の「データにもとづくマネジメント」である。</p> <p>今後、政策立案等については、分野にかかわらずデータに基づくものでなければならないという考え方がベースになると思うし、それは、「基本目標1」や「基本目標5」だけの話ではない。</p>
座長 椎室長 座長	<p>「デジタル化構想（素案）」では、そのような整理にはなっていない。</p> <p>全体のバリューとしてはどのような表現か。</p> <p>P.22に「取り組まなければならないこと（MISSION）」として記載している。</p> <p>構想があって計画が紐づくのだと思う。</p> <p>構想にどこまで盛り込むのかということとは分からないが、結局、市役所内部のデジタル人材の育成が進まないと色々な部署におけるデジタル活用の取組や新しい事業が立ち上がってこないのかなと思う。</p>
椎室長	<p>「基本目標5」には「頼れる市役所」という言葉もあるが、窓口機能の簡便化はもちろんだが、「市役所の人たちがデジタルマインドを持って色々な事業に取り組むための人材育成」というような記載はあった方がよいのではないかと。</p> <p>P.36に「デジタル人材の育成の考え方」として書かせていただいている。</p> <p>国の方でも「デジタル人材の育成」というようなことを盛んに言っているが、実際のところ、何をもちてデジタル人材というのか分からず、また、どのように育成すべきかについても不明である。</p> <p>そうするとやはり、資格の取得というようなことがひとつの指標になるのではとの考え方に立ってこのような形で記載している。</p>
副座長	<p>この点については、A委員や副座長にも相談させていただきながら進めていけたらと考えている。</p> <p>今、座長のおっしゃった内容には賛成である。</p> <p>基本目標の内容についても、デジタル技術を駆使して実現できる前提で書かれているが、そもそも、職員のデジタルリテラシーを上げていかなければならないと思う。</p>

	<p>「イケてる行政」になるために、行政職員自らがデジタルを学ぶ、あるいは先端技術を研究するということを中心目標の中にも文章として追加することはよいのではないかと思う。それによって、何かしらの事業を実施する際の根拠となるものなので、この点は一言でもよいので入れていただけたらと思う。</p> <p>また、「デジタル人材の育成の考え方」の内容については、これはオーソドックスな考え方であって決して悪くはないが、まさに今、A委員も取り組まれていると思うが、この年末年始にデジタルの世界では大革命が起こっている。</p> <p>チャットGPTという言葉聞いたことがあると思うが、これまでは「弱いAI」というものが中心で、「強いAI」はまだまだ時間を要すると思われていた。しかし「強いAI」の一端が登場したと我々は捉えている。</p> <p>「強いAIとは何か」と問われると、「弱いAI」とは、ある限定的な業務あるいは分野に集中して使えるものであったが、今回は割と汎用性の高いAIが登場したということで、私の会社も含めてIT業界では、1月中旬からひたすら自分たちの業務をAIに任せて改善できるかということの研究している。そして実は、これはエンジニアリングのプログラミングができないと研究できないのではなく、皆手探りで、英語であったり日本語であったりAIに投げかけて得られた回答を業務に利用できないかということに取り組んでいる。</p> <p>P.34に「デジタル活用推進体制」を示しているが、こういった先進的なことにトライしていく姿勢がこの体制図からは見えない。外部のセミナーを受けて少しずつリテラシーを高めるような印象である。それは確かに重要であるが、色々な部署がある中で自らの業務についてどのようにしたら一部をAIに任せ、人間はチェック機能を担ったり、AIに指示を与えたりといったことを研究するための姿勢のようなものを盛り込むべきではないかと思う。</p> <p>前半の部分についてはまさにおっしゃるとおりである。後半についてはどのように盛り込むのかについて考えたい。</p> <p>プロジェクトチームを立ち上げ、そこが先陣を切るというようなことはどこでも実施していることであり必要なことと思うが、部署ごとに業務フローがあるので、最終的には部署ごとに業務の効率化を考えたり、デジタル技術を使うことを考えたりというチームを作らないと、ここに示している「ワーキンググループ」だけでは各課に落とし込むまでに道筋が飛び過ぎており、その間の道筋をどうするのかということをもう少し考えた方がよいと思う。</p> <p>現時点では体制図に「ワーキンググループ」と記載しており、その下部には例として「デジタルリーダーの取組みなど」と記載させていただいている。</p> <p>このデジタルリーダーは、副座長のおっしゃるようなレベルのものではないが、各々が所属部署内において感じているデジタル課題について、率先して解決していこうとする人材として庁内に8人配置している。人選にあたっては、すべて自ら手を挙げていただいた人材である。</p> <p>現時点では所属部署内のみの取組であるが、4月以降はもう少し幅広く全庁的に取組内容を展開させるべく活動しており、こういった形のを積み上げていきたいとも考えている。</p> <p>もう1点。P.22の「大切にしたいこと (VALUE)」に「新しいことにトライし、成功への過程を許容する※ただし、ベストを尽くすこと！」と書かせていただいている。</p> <p>市長がよく、「失敗を恐れるな」「やってみて駄目なら元に戻せばよい」ということをおっしゃっているが、どうしても失敗を恐れて新しいことにチャレンジできないという体質であるので、職員にとってデジタル化は未知の世界かもしれないが、こうした気運の醸成に努めていかなければならないと考えている。</p> <p>人材育成の考え方として、「実践を通してチャレンジしていく」というような文言を追加していきたいと思う。</p>
椎室長	
副座長	
椎室長	
中川主幹	

B委員	<p>この「デジタル化構想（素案）」については職員の方もご覧になっているということであるが、自分たちが今チャレンジしているものがあって、「こういうことができたらいいな」というところから、実際の、「デジタル活用で実現したい未来のイメージ」を作らなければならないと思う。職員の皆さまは現場を担当しているから、現場の「困り」というものを本当に理解されていると思う。自分たちが解決しなければならないものがちゃんとテーマとして含まれているのかについて確認いただきたい。</p> <p>現場で困っていることがあるからDXで解決するという形が必要である。現場の「困り」がしっかりとテーマとして表現されているのか確認した方がよいと思う。</p>
椎室長	<p>おっしゃるとおりである。</p> <p>「デジタル化構想」の策定にあたっては、いちばん最初に各課ヒアリングを実施し課題の抽出を行った。その後、現場を最も知る職員にWSに参加いただき、課題解決のためのアイデアを出していただいている。そこを含め、今また各課へ所属長を通じて内容の確認をお願いしているところである。</p> <p>今後、「デジタル化構想」に基づいての実行計画やロードマップを作っていくので、そのためには課題をどのように解決していくのかという議論になるので、ぬかりなく進めていきたい。</p>
B委員	<p>諦めてしまっていることもあると思う。「これはもう無理」「DXでも解決できない」という課題についても、もう1度救い上げていただきたい。「少子高齢化なんて解決できない」というのではなく、もう1度チャレンジしていただきたい。</p>
椎室長	<p>少子高齢化についてはある意味どうしようもない課題である。しかし、市長がいつもおっしゃるとおり元気な高齢者がたくさんいるのであれば何の問題もないということである。そういった考え方も踏まえながら、諦めてしまったテーマにも光を当てていきたい。</p>
座長	<p>「構想」については「佐渡市総合計画」に基づいて作っているのも、もちろん総花的になるし、全ての部署に関わることが全部盛り込まれているという形になるが、今後、実行計画を作って実際に走り出す時に、「重点的にここから取り組もう」という仕切りが必要と思う。この点について、お示しされている体制図ではそのあたりの意思決定はどのようなプロセスを経て決まっていくのか。</p>
椎室長	<p>P.34の「デジタル活用推進体制」は、庁内における意思決定を含めた体制図であるが、この「デジタル化構想」が包含しているところで「自治体DX推進計画」というものがある。</p> <p>P.18の「佐渡市デジタル化構想・計画策定の背景・目的」には、「自治体DX推進計画に掲げられている重点取組事項」として、「自治体行政手続のオンライン化」や「マイナンバーカードの普及促進」など6つの重点取組事項が記載されているが、「デジタル化構想（素案）」において最も目に見えて取り組まなければならない内容はこの重点取組事項ではないかと考えている。4月からは行政手続のオンライン化もスタートすることとなるが、まず、これら目に見えている部分から重点的に取り組まなければならないと考えている。</p> <p>各課における個別の実行計画については、6月頃までにロードマップ化し、そちらも見える化していきたいと考えている。</p>
座長	<p>実際に各課における取組がスタートするのは令和6年度以降となるが、そこは優先順位も含めて見える形としてお示ししたいと考えている</p> <p>現実的に考えると、自主財源を使ってできることはほんの僅かで、国等の財源を確保する必要があると思うので、それぞれのテーマで可能な限りたくさんの企画書を書いて、予算の措置がなされたものから動き出すという形になるのか。</p>
椎室長	<p>財政計画との兼ね合いもあるため、ロードマップを描いたとしてもそのとおりに動ける訳ではないと思う。</p> <p>今やっていることをデジタルに置き換えていくという整理をする必要がある。職員も</p>

<p>座長</p>	<p>デジタル化によって業務を効率化させる必要があるし、もちろんお客様の負担軽減も考えなければならない。</p> <p>市役所内部には、「デジタル化＝手間が増える」というイメージがあるように思えるが、そうではないという考え方を踏まえて進めないとDXは難しいのかなと思っている。</p> <p>お金の面と併せて課題と考えている。</p> <p>先ほどの副座長のご意見が頭に残っていて、もしかすると計画を作ったとしても1年後には全く違う技術や、予想すらしていなかった、今は見えていないことが実現されていて、それによって世の中が大きく変わっているかもしれない。そういった時の機動的な働きかけというか、きっとデジタルの世界は計画を作ってそれを着々と実現していくという形にはならないのではないかなと思う。どんどん変わっていく世界の流れを見ながら、それをうまく取り入れながら佐渡らしいモデルを作っていく形になるのだと思う。</p> <p>先ほどのデジタルリテラシーの人材育成という部分と、機動的なチームの編成というか、例えば、状況に応じて新しい波に乗るということをしていくための組織作りが必要なのかなと思っている、そのあたりが、先ほどの「イケてる行政」の中に含まれるのかもしれないが、機動的な体制構築のようなものも一言含めておくと、そこを意識して庁内のプロジェクトチームのデザインもできるかもしれないと思う。</p> <p>今、ほとんど同じことをお話ししようと思っていた。</p>
<p>副座長</p>	<p>着実に進めていくということはもちろん大事である。マーケットインというか、先ほどB委員のおっしゃったように、ニーズを掘り起こして、「そもそも、実現できないと諦めているけど、できるんじゃないか？」など、色々なところを拾い集めながら1つ1つ解決していくということは大事である。しかし、余りにも技術が変わり過ぎているものも確かにあって、そうすると、行政の現場で働いている方々からすると、「そもそもこんなことは予想もしていませんでした」というような、「発想すら出てこない」「潜在的ニーズが掘り出せない」ということが起こるのではないかなと思う。</p> <p>そうすると、メインルートは基本的な方法でよいが、サブルートについては、先ほどのような「強いAI」が現れて、しかもお金もほとんどかからず使えるとなった時に、「それを使って何ができるのだろう」という、メインルートとは別に機動的に動くチームが研究して、それが横串のワーキンググループのような形で、庁内に「こんな使い方ができるのではないか」と投げかけることができる2つのチームを体制図の中に書き込んでおくと、面白いことが起きるのではないかなと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>非常に悩みどころである。おっしゃるとおり、今までどおり計画を作って、その計画が10年間走り続けるのかという世界でなく、明日や来週になると技術革新があって車も空を飛ぶようになるのかもしれない世界に差し掛かっていると思う。</p> <p>機動的に動ける部分については構想において謳うべきものと思うので、「計画にないことをするのか」という説明責任を果たすという意味においても、記載することを考えたいと思う。</p> <p>念のため、P.18の「佐渡市デジタル化構想・計画策定の背景・目的」にも「地域課題の動向や日々進化するデジタル関連技術の動向を踏まえ、必要に応じて見直ししながら更新を図るものとします」とは書かせていただいているので、ここに基づいて実行する側についても、機動的な対応について盛り込ませていただきたいと思う。</p>
<p>A委員</p>	<p>1つ思うのは、行政側だけでなく産官学の連携で問題や課題に取り組みなければならないということである。</p> <p>例えば、懇談会についても永遠に何らかの形で、産官学が共同で新たな技術についての情報等を取り入れていく必要がある。その時に、行政側が「BPR」という感覚を常に持ち合わせていないといけない。新しい技術を導入して、働き方、行政サービスをどんどん向上させていくというマインドを持たないと、新しい技術を取り入れ、活用することはできない。</p> <p>ここが実は大きな壁である。</p>

<p>椎室長</p>	<p>行政の伝統として「変えることは嫌」という考え方があると思うので、そのあたりを今回の「デジタル化構想」においても、「どんどんよい仕組みにしたい」「自分の仕事も楽しみたい」というようなことを盛り込んで進めてほしい。</p> <p>産官学の連携について、懇談会の中で色々な課題に対して継続的に議論していく姿勢が大切なのかなと思う。</p> <p>懇談会もずっと同じテーマではなく、新たなテーマを考えながら動かしていきたいと思う。</p> <p>「BPR」の考え方については、A委員のおっしゃるとおりである。新年度、新庁舎の稼働時期に合わせて、「お客様に書かせない窓口」の実現を目指して動き出そうと考えているが、これは今年度の秋に窓口担当職員に向けた「BPR研修」を実施した中で生まれた動きである。</p> <p>業務フローの見直しは、「今までそうやってきたから」という考えではなく、どうしたらデジタル技術を活用しながら市民の利便性の向上に貢献できるのかを考えなければならぬと思う。</p> <p>例えば、ペーパーレスが進まないのは、文書の規定に「文書は紙に印刷して受付印を押さなければならない」という決まりがあるからである。来年度以降、その文言は改められると聞いているが、これも大きなプロセスの変革であると思う。</p> <p>私たちのお仕事は、条例・規則ですべて決まっていることであるので、1つ1つを見直すことは非常に大変な作業であるが、そもそもの考え方そのものもデジタル寄りに変えていく必要があると思っている。</p> <p>「BPR」についても、今時点の技術で考えるのではなく、色々な未来に思いを馳せながら、懇談会を通じて先駆的な技術やアイデア等の情報もいただきながら考えていきたいと思うので、引き続き助言等についてお願いしたい。</p>
<p>座長 中川主幹</p>	<p>他にご意見等あるか。</p> <p>一旦、「デジタル化構想（素案）」の全体についてご説明させていただきたい。</p> <p>先ほどご説明させていただいたとおり、「デジタル活用で実現したい未来のイメージ」について第3回の懇談会でご意見等いただき、そういったものから書き物として「デジタル化構想」としてまとめているので、ご説明させていただきたい。</p>
<p>中川主幹 座長</p>	<p>1) 「佐渡市デジタル化構想（素案）」の策定について</p> <p>② 「佐渡市デジタル化構想（素案）」の内容について （アジェンダP.11～337について説明）</p> <p>細かい表現だが、P.22の「大切にしたいこと（VALUE）」が気になっている。</p> <p>「市民参加」と「歴史・文化・自然の尊重」をドッキングしてしまっただけなのか。デジタルというコンテンツの中で市民参加は非常に重要なVALUEであると思うが、このことと歴史・文化・自然の尊重ということは別のものと思う。</p> <p>また、その次の「デジタルモラルの醸成で次世代が希望を持つことができる地域社会」についてであるが、現在、デジタルモラルで問題となっているのは、例えば、安心してコミュニケーションが図れないであるとか、間違っただけの情報の使い方であるとか、第2回の懇談会においてC委員からもご意見として挙がっていたが、次世代の希望というより、安心してデジタルが活用できる社会の構築という部分と関わってくるのではないかと考えており、表現について改めてよいのではと思う。</p>
<p>中川主幹 A委員</p>	<p>再度検討したい。</p> <p>表現は別としても、とてもよいと思う。</p> <p>これだけ色々な情報がある中、正しい情報をちゃんと理解できるのかという意味で「モラル」という言葉を使っていると思うので、とてもよいと思った。</p> <p>個人個人が正しい情報と正しくない情報を区別できるようにするためにはどうしたらよいと思うが、そういう意味として使っているのであれば安心である。</p>

<p>座長 A委員</p>	<p>他にご意見等あるか。 もう1点。 デジタル活用の本質が何かと言えば、データの活用と思う。 「デジタル構想」には10年間の目標があるが、10年後に「できたら終わり」ではなく、その10年間、1つ1つのテーマに対してデータを収集してどんどん改善していく。もしくは新しいことを取り入れていくという切り口がデータ活用である。非常に技術屋的な考え方かもしれないが、「DX」のトランスフォーメーション側は本来そういうことである。 ITを使ってオンラインで申請したらそれで終わりというのではなく、オンラインで申請してきた人たちの状況のデータを見て次の新しいサービスに使っていく。そのデータ活用をするために、人材であればデータエンジニアリング、データサイエンティストのような方が必要であるとか、トラストという考え方で情報セキュリティをしっかりとしなければならず、そもそもデータを活用する基盤として佐渡市がどのようなものをイメージするのかという、データ連携に関する記載が欲しいと感じている。 技術的な内容になるかと思うが、データ活用とデジタル活用をうまく表現できればよいと思った。 データマネジメントとデータ活用という部分については、個別の推進テーマの方には記載しているが全体的な部分では薄いと感じている。</p>
<p>中川主幹</p>	<p>もう少し全体としてデータ活用によって改善をしていけるような内容の記載について検討する。</p>
<p>A委員</p>	<p>人口減少について、自然減に対する自然増は難しいということと、何かの手当を厚くして他の地域から人を呼び込んだとしても日本全体としては変わらない。要するに、元気な高齢者をどんどん増やしていけばよいと思う。 そういう意味では、P.23の「基本目標1」や「基本目標2」はそのとおりであると思うが、2025年問題もあるが、ここに記載しているようなこと以外にも、ソーシャルキャピタルのようなコミュニティの中で生きてくるようなデータ活用の仕方が、この2つの基本目標に共通するのかなと思う。 ちなみに私見ではあるが、「基本目標5」の「デジタルネットワーク」という言葉については何か違う言葉がないかなという思いである。 「デジタルネットワーク」とは、Society5.0のCPSで言うとサイバー空間とフィジカル空間を繋ぐものという理解か。どのようなイメージをすればよいか。web3.0で言う、ユニバースとメタバースを繋ぐ空間をインターバースと呼ぶ人もいるが、この「デジタルネットワーク」はどのようなイメージをしたらよいのかという思いである。</p>
<p>中川主幹</p>	<p>個人的な意見である。 イメージとしては、人と人の繋がりのようなものをデジタルで繋いでいくというものである。</p>
<p>座長</p>	<p>「デジタルネットワーク」とは専門的な用語なのか。それとも、あまり聞き馴染みのない言葉のために気になるということか。</p>
<p>A委員</p>	<p>あまり聞いたことがないというか、あまり使わない。逆に、あまり使わないからこそ新しい言葉としてはよいと思った。ただ、どのあたりをイメージさせたらよいのかという説明ができないと思う。</p>
<p>椎室長</p>	<p>高齢化であったり、独居老人であったり、集落内のコミュニティの維持が難しくなっていると聞いている。 1つ分かりやすい具体例で言うと、タブレット端末があつて、集落の皆さんの顔が見えて、回覧板も回せるといったような、人と人を繋ぐことをデジタル技術の活用によってできないだろうかということ表現しようとしているものである。</p>
<p>座長</p>	<p>特に「市民活動」というテーマにおいて使おうとしている言葉と思うが、市民活動と聞いてイメージするものは、一部の人は公民館活動をイメージする。それから、もう1</p>

A委員	<p>つはNPO活動をイメージする場合があって、NPOの方については、子育てだとか環境だとか色々な分野の中で、色々な人が色々なことに取り組んでいるのだけれども、そういった取組が可視化されていないということはよく言われている。</p> <p>例えば、環境分野においても色々な人が色々なことに取り組んではいることは知っているけど、それ以上のことは分からないといったようなことがある。それで、情報を一元的に可視化することや、可視化された情報を使って外部と結びながら、外部のリソースを呼び込んでいくというようなことにも取り組んでいるが、市民活動という観点にはそのあたりがすごく欠けているという認識はある。</p> <p>「デジタルとネットワーク」であれば私も疑問を持たなかったかもしれない。個人的な意見である。</p>
座長 椎室長	<p>「デジタルが生み出す繋がりを活かして」というような感じか。</p> <p>用語説明・解説のようなものは必要であろうと考えている。「デジタル化構想」を市民の方に説明する時に「デジタルネットワークって何?」というお話になると思うし、その時には今のような説明が必要と思う。</p>
座長 副座長	<p>他にご意見等あるか。</p> <p>P.34の「デジタル活用推進体制」を見たときに、ページ下部の「プロジェクトチーム」「ワーキンググループ」「各課」について、行政的な縦割りのイメージに思えてしまう。</p> <p>例えば、横串でワーキンググループを作るとしているが、各課に対して「こういうことを進めてみてはどうか」と投げかけたとして、しかし、各課は各課で実行計画を策定してしまう訳で、その後にワーキンググループが実行計画とは異なる目線の提案をした場合にはどのように処理されるのか。</p> <p>結局そこは、副市長がCIOとして差配するのはよいが、どちらか一方しか選択できない場合はどのようなルールに則るのかなど、大筋の優先順位の付け方だけは決めておいた方がよいのではないかとということと、縦割りにならざるを得ないことは理解しているが、もう少し役割分担表のようなものをしっかりと作っておかないと、プロジェクトチームとワーキンググループの間、ワーキンググループと各課の間にありそうなことは誰が担うのかが不明確であり、曖昧なところは誰も何もしないというようなことが起こり得るのではないかと危惧している。</p> <p>この体制図に関しては、役割をもう少し具体化しておくことと、事務フローをどのように作るのかということが気になるところである。</p> <p>ちなみに、今のような懸念点が実際に起きたときにはどのように対処されるおつもりか。</p>
椎室長	<p>来年度は実行計画を立てていくこととなるが、昨年6月に各課にヒアリングを実施した際に関連課についても概ね把握しているため、実行計画についても必ずしも各課だけで策定するのではなく、策定段階から横断的な形で作っていくことを想定している。</p> <p>ただ、予算要求はどの課が行うのかということであったり、窓口担当はどこが担うのかということであったり、そういうお話は必ず発生する。そこは実際に事業を所管している課にリーダーを担ってもらうような必要はあると思う。</p> <p>体制図の表現については、我々としても最も頭を悩ませた部分ではあるが、行政の縦割りに悪い部分もよい部分もあり、表現する形としてはこのような形が今回の落としどころであった。</p> <p>考え方としては、最初からある程度グループ化した中で実行計画の策定に臨みたいと考えている。</p>
副座長	<p>先ほど座長あるいはA委員からもお話があったが、実行計画を作る最初の1年目に関してはそういう形で動かれるのだろうということは分かる。ただ、その後に技術の進展が現実化し、ワーキンググループから「2~3年後にまた違った取組をした方がよいの</p>



	<p>ではないか」「方向性を変えるべきではないか」という話が起きたときにはどうされるのか。時系列的に。</p> <p>その時に、デジタル活用責任者は各部長であるが、体制としては横串で部も跨っている訳であるから、その時に副市長がデジタル政策主幹の意見も聞きながら差配するといった何らかのルールを決めておかないと、動き出したとしても継続性がないのかなという気がしている。</p> <p>恐らく横の紛争は上層部の方でステコミのような形で決定というような形になるのだと思う。</p> <p>県庁ではトライしようと思っていることがあって、少なくとも「ワーキンググループ」「プロジェクトチーム」「各課」についてはDAO化しようかと考えている。DAO化というのは1つのテーマに沿った形で関連する部局を全部集めてみようかということである。</p> <p>新潟県の「デジタル改革実行方針」は2月に改訂版が出たが、そこに「web3.0の推進」というテーマを入れていただいた。なのでそれを利用して、来年度1年間をかけて横串的な取組をコミュニティベースで進めたいと考えている。要するに現場の縦割りをなくすということである。予算であったり職員数であったり課題はあったが、「まずは皆で手分けしてやってみようよ」ということでDAO化してみようと思っている。</p> <p>上層部の改革はハレーションが大きいので、まずは現場において1つのテーマを投げかけて関連するところをすべて集めてみようと思う。会議室に集まらなくとも、自席でweb会議に出席すればよいという形になってきているので、そのようなやり方をするのも1つの手段かなと思う。</p>
A委員	<p>参考までにお聞きしたい。「1人1票」のようなやり方か。</p> <p>目的はBPRとして壁を失くすということなので、関係している人たちは各々がパスを持って参加していただきたいということをカルチャーとして変えたかったという形で、そこでどんどん貢献すると評価に繋がるという仕組みもあるとよいとは思っている。</p>
副座長	<p>逆にDAO化することで、消極的に今あるものを変えないというところに票を入れる人が多数増えてしまうと、結局は「やらない」という意思決定になるものもあり得るのではないかなと思うので、どのようなやり方をするのかお聞きしたかった。</p>
A委員	<p>1つのかき混ぜる仕組みとしては面白いと思う。</p> <p>7対3から6対4くらいになればチャンスかなと思っている。</p> <p>7割が昔の人。そして、若い人が今どんどん入ってきているので、若い人には学ぼうとする視線もあるので、そのあたりを焚きつけてみようかと思っている。若い人に向けて何ができるのかを考えたい。ある意味、デジタルエイジのような、デジタル時代における働き方改革の1つでもあると考えている。</p>
副座長	<p>1つのテーマを実現するために、例えば、後々「web3.0の推進」に取り組もうと思った時に、「基本計画にそのことが書いていないために取り組みません」ということになりかねないので、それならば、「イケてる行政」になるために、将来への伏線は入れておいた方がよいのではないかな。</p>
A委員	<p>佐渡のスタートアップの方々も恐らくそのあたりを虎視眈々と狙っていると思われるので、それは悪くないと思う。</p>
副座長	<p>恐らく、私の懸念は実現すると思っていて、この「デジタル化構想」のエンジンは「イケてる行政」の部分だと思うので、そこが変わらなるとなかなか構想の実現は難しいのではないかな。</p> <p>変わるためには、変わるための仕組みであったり前進するための仕組みであったりある程度用意してあげないとなかなか突破できなくて、前進するエンジンさえ用意しておけば、小さな成功体験を積み重ねていけばどんどん変わっていきけると思うので、現在書かれている推進体制でうまく回るのかなという部分は気になるところである</p>

<p>椎室長</p>	<p>。無理は承知で申し上げている。</p> <p>現行の佐渡市の行政組織の考え方からすると今のようなご意見への対応は難しいのかなと思う。しかし、機動的な組織とはA委員もおっしゃっているようなことなのだと思う。</p> <p>現在の佐渡市は部制を採用しているが、部の中に課があり、課の中に室や係があるが、例えば、課や係を取っ払って部内にプロジェクト毎のグループ制を敷くなど、色々な方法はあるのだと思う。しかしながら、その意思決定を行うのはデジタル政策室ではない。</p> <p>佐渡市には「持続可能な行政経営プラン」があり、その中に「機能的な組織体制の構築」という取組項目があるので、こういったことも踏まえながら考えていかななくてはならないので、榎副座長の懸念を回避できるように、この行政組織の考え方そのものも変えていく必要があると思う。</p> <p>行革担当とも議論を重ねたいと思うが、今時点では具体的な対応策は持ち合わせていない。</p>
<p>座長</p>	<p>プロジェクトベースで進めていく時と、DAO化するという言葉を使う時と、どのように違うのか。</p>
<p>A委員</p>	<p>プロジェクトは仕事にアサインするが、DAOは興味を持っている人たちが自らの空き時間で「それ、一緒にやりたい」というような形である。</p> <p>行政は3年に1度異動になるということもあり、「そういうことに興味を持ってみたい」とか「何をしているのか分からないから、知りたい」というような人たちが若い人にいると思う。</p>
<p>副座長 A委員</p>	<p>興味を持っている人たちだけで組むのか。</p> <p>それだとあまりよくないかもしれないので、そもそも行政的な担当者には入ってもらう必要がある。ただ、それをオープンにすることによって、どこかに時間の空いている興味のあるような人たちに参加してもらってもよいのではないか。</p>
<p>副座長</p>	<p>すごく面白いなと思いながら聞いていた。当然、組織としては一部の人間だけで決定したということはよろしくないので全員参加ということになるが、極端な話、意思決定の場に参加しなかった人はそれを放棄したと見なすと、結局、デジタルに疎い人たちは何も否定できず、積極的な声の方が大きく得られるので、新しいことを生み出すための大義名分であったり、機動的な動きを補強するであったり、そういうことは全然あり得るのかとは思った。</p> <p>今すぐということは厳しいと思うが、提案としては「イケてる行政」の中の一部に「web3.0の研究」などを記載し将来への含みを持たせるとか、現在の組織体制を壊すということは難しいと思われるので、「ワーキンググループ」「プロジェクトチーム」「各課」あるいは「各課同士」の役割分担をどうするのか、また、別の取組を考えなければならなくなった時の解決の仕方のフローや進め方だけは、最低限決めた方がよいのではないか。</p>
<p>座長</p>	<p>コミュニティがなければ何も生まれてこない訳である。そのコミュニティが市役所の中にはない。</p> <p>例えば、周りの課が何をしているのかが分からないし、隣の席の人が何をしているのかが分からない場合がある。</p> <p>そこからもっと違う次元のコミュニティが庁内で形成されるからこそDAO的な仕事が成り立つのだと思うので、そのあたり、力ちとした仕組みづくりではなくて、違うレベルでのコミュニティを作っていく方向に行けるような何かしらの文言が搭載されるとよいのかなと思う。</p>
<p>A委員</p>	<p>来年度、新潟県庁では練習にweb3.0の勉強会・ワークショップを実施する。また、国土交通省の「PLATEAU」をベースに、ゲームで皆やっていると思うので、アンデュアル</p>

副座長	<p>エンジンを使って自分たちで動かしてみるというような勉強会や、自分のチャットGPTを作ってみようだとか、そういうものを頻りに企画しようかなと思っている。さらに、その際には地場の企業にも声がけて一緒に取り組むなどしてコミュニティを作っていたら、勉強したら終わりというのではなく、Logoチャットを用いてチャット上にコミュニティを残してもらおうと思っている。</p> <p>座長からおっしゃっていただいたのは、プロジェクトチームやワーキンググループの横串として理解はできるが、P.34の「デジタル活用推進体制」は上からの命令に対して応えるためのお仕事として発足するチームチームなりグループであると想定できる。</p> <p>どんどん技術が進展していく中で、自発的にチームを立ち上げるきっかけづくりが大事なのではないかとということがA委員のおっしゃりたいことだと思う。そこまで踏み込めるのかどうかは別としても、佐渡市側としても新潟県より遅れるということをお恥ずかしいと思わないといけないのではないかと。佐渡市の方が機動的に動けるはずである。</p> <p>是非、良いところは取り入れていただける余地を、この「デジタル化構想」の基本目標や推進体制図に落とし込んでいただきたい。「体制図に関して、詳細は逐次検討する」であるとか、色々と記載しておくことで前進することができるように備えていただきたい。</p>
A委員	<p>P.34の「デジタル活用推進体制」について、青い枠を圧縮し、下の方にはワクワクするような色々なことを書くと、市民の方もきっと楽しめるのではないかと。</p>
副座長 A委員 座長 椎室長	<p>そのとおりである。</p> <p>それは、民間の会社や行政においても大切なことである。</p> <p>A委員のおっしゃるとおり、市役所庁内に限定しなくてもよい訳である。</p> <p>おっしゃるとおり、当然、行政の側だけで進められるお話ではないので、民間の力を活用しなければならないと考えている。行政だけで完結されるものではない。</p> <p>今、皆さまよりいただいたご意見を踏まえ、表現に含みを持たせるということをお応じたいと思う。</p>
座長	<p>他にご意見等なければ、「デジタル化構想（素案）」の内容についてはここまでとし、議事2）その他へ移りたい。</p> <p>その前に、5分ほど休憩とする。</p> <p>(5分間休憩)</p>
座長	<p>それでは再開する。</p> <p>事務局より説明を求める。</p>
椎室長 座長	<p>2) その他</p> <p>① 令和5年度の懇談会について (アジェンダP.39について説明)</p> <p>令和5年度の懇談会の進め方についてご意見等あるか。 なければ、次へ移る。</p>
椎室長 座長	<p>2) その他</p> <p>② 令和5年度の主な事業について (アジェンダP.40～44について説明)</p> <p>この点について何なご質問等あるか。 アジェンダP.24のデータ（「所要時間：約1時間半」「記入書類枚数：10枚」（氏名24か所記入、住所14か所記入）」）には驚きである。すべてにおいてこのような手続が</p>

<p>椎室長</p> <p>A委員 椎室長</p> <p>副座長 椎室長 座長</p>	<p>あるのではないか。それが可視化されるだけでもすごいことである。</p> <p>おっしゃるとおり、5人家族が佐渡市へ転入した場合を想定した場合のデータであるので、10人家族であれば手続に3時間ほど要するのかもしれない訳である。</p> <p>マイナンバーカードの申請率はどの程度か。</p> <p>53%程度である。県内においても最低限の数字であるが、40%台から引き上げてきたものである。</p> <p>OCRのところは、既にパッケージとしてあるサービスを利用するということか。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>それでは、他に質問等なければ議事は以上である。</p> <p>佐渡市CIOである伊貝副市長よりご挨拶をお願いします。</p>
<p>伊貝副市長</p>	<p>4 CIOあいさつ</p> <p>本日は長時間に渡りご意見等いただき感謝申し上げます。</p> <p>この懇談会については、「佐渡市デジタル化構想」の策定について、今年度だけでも書面開催を含めて5回の開催ということで、非常に貴重なご意見を委員の皆さまよりいただいている。</p> <p>「構想」についてはまだ素案の段階ではあるが、この後、4～5月にかけてパブリックコメントを経て策定という予定である。策定後については、市民の方へどのように周知するのかということについて課題と考えており、何かしらよいお考え等あればお知らせいただきたい。また、新年度については、この「構想」から具体的な「計画」へと進んで参りますし、今ほど説明いたしましたとおり、事業についても新たなものが稼働して参ります。</p> <p>引き続き、皆さま方よりお力添えを賜りたいと思っており、何卒、よろしく願いしたい。</p>
<p>座長</p>	<p>本日は、心より御礼申し上げます。</p> <p>伊貝副市長からのご挨拶に感謝申し上げます。</p> <p>最後になるが、榎副座長より閉会の挨拶を申し上げます。</p>
<p>副座長</p>	<p>5 閉会</p> <p>佐渡市の皆さまには、1年間ご尽力いただき感謝申し上げます。</p> <p>また、委員の皆さまも1年間お付き合いいただき感謝申し上げます。</p> <p>本当に皆さまよりご意見・ご指導いただき、佐渡市らしい基本目標というものがある程度の形として見えてきたのかなと思っている。</p> <p>ただ、所謂「絵に描いた餅」とならないようにしていくために、ここから具体化していく作業が残っており、そこが非常に重要になると思っている。</p> <p>また、先ほども議論に出たが、前進していくためのエンジンとなる、行政の皆さまの意識改革や学んでいただく姿勢も非常に重要になると思うし、そのためには、市民の皆さまと私たち、或いは職員の皆さまがワクワクしながら構想を作っていけるような仕組みづくりが大切であるということをお日学ばせていただいた。新潟県の取組にも色々とお学ばせていただきながら勉強していきたいと思っている。</p> <p>また来年度1年間、よろしく願いしたいと思う。</p> <p>本日は、心より御礼申し上げます。</p>